

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|----------------------|------------|
| 事業所番号 | 0790100333 | |
| 法人名 | 株式会社リブレ | |
| 事業所名 | グループホームリブレ松川 あやめユニット | |
| 所在地 | 福島県福島市松川町美郷4丁目13-8 | |
| 自己評価作成日 | 平成28年1月10日 | 評価結果市町村受理日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | |
|-------|-------------------------|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 福島県介護支援専門員協会 | |
| 所在地 | 郡山市亀田2丁目19-14 チャレンジビル2階 | |
| 訪問調査日 | 平成28年2月12日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 毎月第3火曜に「オレンジカフェ」を開催しており、地域の方が集い、参加者同士の交流を通して楽しい時間を過ごせるような場を提供している。
- 毎日の散歩を欠かさず、隣のグラウンドまで出かけていき、そこで出会う地域の方々と挨拶を交わすことで交流を深めている。
- 高齢者複合施設として美郷・石合地区の「徘徊模擬訓練」への参加や「地域の方に向けた研修会」の開催などを行い、地域包括ケアの担い手となるべく活動している。
- 介護福祉士や介護支援専門員の受験対策研修、初任者研修の無料受講など支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合施設であることを活かして、日常的に利用者の交流や、スタッフ間の情報共有を行っている。スタッフ一人ひとりのモチベーションが高く、常により良いケアを追及する姿勢があり、例えばヒヤリハットの報告をどんな小さいことでも取り上げ、複合施設全体で共有している。15回も継続しているオレンジカフェの活動においては、当事者の参加を家族・ケアマネや民生委員が働きかけ、そこに地域の方や地域包括支援センター職員が参加している。また、研修会の地域住民への開放など、法人内にとどまらない取り組みが多くみられ、年末には地域に向けて『あなたの力を地域のために!』と題するチラシを松川地区へ配布し、高齢者の人や認知症の人への支援の研修会を開催した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 外 部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|--------------------|---|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全員で自分がしたい、受けたい介護を考え作成した。特に全員が覚えやすいものにした。「目と目を合わせて」その人の立場になってどうしたいのか、どうしてするのかを常に考えて行なうよう意識している。 | ユニットごとの理念に関しては、年度末に全スタッフが参加して作成している。日々のケアに生かせるように短い言葉で「受けたい介護・やりたい介護」をイメージするものにしている。 | |
| 2 | (2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 毎日の散歩でグラウンドゴルフの方と挨拶を交わし顔見知りになってきている。オレンジカフェ・徘徊模擬訓練への参加、秋季祭礼の立ち寄り所等で地域の方に知ってもらい気軽に来れる場になってきている。 | 地域の方が立ち寄りやすい話易いきっかけ作りとしてオレンジカフェの開催をしており、その結果、退職後の男性がその後タクシーで通ってくる例があったと聞く。また利用者が作った雑巾を学校にプレゼントしている | |
| 3 | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 回覧板で研修会の案内を回してもらい、地域の方向けの認知症についての研修会を行なった。オレンジカフェでは毎回ミニ講座を行ない、認知症予防の体操を行ったり、掲示板でためになる情報をお知らせしている。 | | |
| 4 | (3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者も毎回参加し、意見を伺うようしている。家族からの意見で誕生会のマンネリ化を指摘され、余興を企画し、職員・利用者・家族で楽しくお祝いできるようにした。 | 毎回、参加者から積極的な意見が聞かれ、家族からの協力の申し出も多い。誕生会の開催もそうした例の一つであった。 | |
| 5 | (4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域包括支援センターに協力していただき地域に住む高齢者の方々へオレンジカフェへの参加を呼びかけていただいている。 | 『あなたの力を地域のために!』と題して認知症の方への声の掛け方や接し方の研修会を企画し、行政の協力の下、松川地区へのチラシを全戸配布できている。 | |
| 6 | (5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中はユニット玄関を開放しセンサーは終日切っている。居室より自由に戸外へ出て好きな活動をされている。スピーチロックに配慮し、常に気に掛けるよう日誌にはさんで目を通している。社内勉強会を通じ何が拘束にあたるのか学び取り組んでいる。 | 特にスピーチロックの具体例を日々目にするこの多い日誌にとじこみ、常に振り返ることができるよう工夫していた。また、職員間で繰り返し話題にすることで、未然に防ぐ努力をしている。 | |
| 7 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 社内勉強会にて共通の理解が得られるようにしている。毎月の委員会で該当事例はないか確認しあい、また日々職員同士もケアの中で不適切なケアになっていないか振り返りを行うなど話し合っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 社内勉強会にて成年後見制度について学び、理解を深めている。以前入所していた方の家族から相談を受け、手続きのお手伝いをしたこともあった。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | H27介護報酬改定の際、家族会を開催し、説明・質疑応答を経て、家族同意の上で契約を交わしている。新規契約時は必ず家族と読み合わせをし、疑問点をつど確認しながら説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族面会時に最近の様子をお伝えし、家族の要望や思いを確認するようにしている。内容は家族面談表や申し送りに記入し、職員間や運営推進会議等で伝えケアに生かしている。 | 家族の申し出から、誕生者が集中した月に従来の個人ごと誕生祝ではなく、初めて家族も参加しての誕生会として開催した。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年に2回定期的な面談を行い、また必要に応じ個別に面談を行い、悩みや不安、提案等を聞く機会を設けている。自動販売機設置の提案は近隣にないこともあり、実現した。 | 社長自らの面接が年に2回あり、直接意見交換の機会がある。また年1、2回アンケートを実施し、職場改善・環境改善の意見を集約し、その結果を開示している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている | 自主的な外部研修への参加や勉強会への参加など自ら学ぼうとする環境を作り、年2回の人事考課や日々の勤務態度、毎月自己評価をしてもらい、達成状況によって相談やアドバイスをもらっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修への参加、毎月の勉強会実施、年1回の事業所全体での事例報告会など、自ら学んでいける環境を提供している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 提携施設との連携、松川地域ネットワーク委員会や介護福祉士受験対策勉強会へ参加するなど交流する機会が多くあり、質の向上に努めている。 | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|--|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | センター方式を用いて生活歴や既往歴などを把握したり、本人の思いや言葉を気兼ねなく言っていただけるよう関わりを多く持ちコミュニケーションを図っている。 | | |
| 16 | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に必ず家族との面談の場を設け、不安や困っていること、要望等をお聞きするようにしている。 | | |
| 17 | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族からの要望や入居前に利用していたサービス事業者から情報提供してもらい、必要な支援を見極めるようにしている。 | | |
| 18 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 毎日の家事(掃除や調理)、畠仕事、庭の手入れなどを一緒にを行い、生活歴の中で培ってこられた知識や技術を教えてもらったり、共に支えあいながら暮らししている。 | | |
| 19 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 誕生日会への参加、衣替えや外泊・外出支援など協力していただき、できる限り家族が関わられる場面を作っている。それぞれの家族の歴史を大切にし、家族の絆を再構築できたケースもあった。 | | |
| 20 (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 以前からの友人が同施設内に入居され居室を行き来、ディサービスに通う友人との交流が復活したケースがある。なじみの美容院に通ったり、自宅への外出、外泊など馴染みの関係が継続できるよう努めている。 | 複合施設の機能から近隣の方々と触れる機会を持つことができる。入所後、実家があつたところへ訪問できた。また、家族関係が悪化していた方へ、職員が間に入ることで4年かけて関係を修復した例がある。 | |
| 21 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ユニット内だけではなく、ユニット間・施設内事業所間交流が盛んでよく行き来している。毎日の家事仕事だけでなく、誕生日会の飾りつけ、調理、演奏など得意なことで力を發揮してもらい皆で楽しめるようにしている。 | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 実践状況 | 外部評価 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|--------------------------------------|---|---|--|-------------------|
| | | | | |
| 22 | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 長期入院→退所のケースで再入所の希望があり受入れについての相談を行った。ご逝去後も本人の聴いていたCDを寄付していただき、立ち寄ってくれ当時の思い出話をするなど関係を継続している。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 普段のコミュニケーションの中から汲み取り、訴えをケース記録等に記録しえる限り実現できるようにしている。困難な方の場合も言葉だけでなく表情や行動などから思いを汲むよう努めている。 | 一人ひとりの行動のパターンをよく観察しており、タイミングをみてトイレ誘導をしたり、行動の促しをしていた。言葉を重ねることなく、最小の働きかけで満足の笑顔を引き出していると感じた。 | |
| 24 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に家族にセンター方式のシートを記入していただいたり、面会時に話を聞く等情報収集している。得た情報は本人との普段のコミュニケーションに活用しさらに引き出せるよう心がけている。 | | |
| 25 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケース記録、食事・排泄チェック表など活用し1日の生活の様子を把握。担当者が主となり、現状の把握に努め、カンファレンス等で情報共有。出来る限り本人と相談しながら過ごしていただいている。 | | |
| 26 (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のカンファレンスの内容、評価は担当者が中心になって行い、ユニット職員全員で話し合い、実施している。面会時に家族と生活の様子を話し合い何かあれば相談している。日々何かあればすぐ話し合っている。 | 日誌に利用者一人一人の変化を記載し、対応の必要性を吟味し、その結果は個人の記録に詳細に乗せ、ケアプランの見直しにつなげている。職員が個々の利用者に関する情報収集に熱心で、共有を図っていた。 | |
| 27 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 本人の言葉や行動など気になったことをケース記録、日誌等に記入しケアに活かせるようにしている。特に活かしたいことはマーカーを引いて分かりやすくしている。 | | |
| 28 | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族からの要望があった時はなるべく早い対応を心がけ、できる限りニーズにこたえるようにしている。飲み込みが難しくなってきたため口腔外科の往診をお願いしているケースがある。 | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|----------|---|--|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 29 | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内会に入り地域の催し物に参加させていただいている。入所前からのつながりを大切にし美容室に送迎したり、友人知人が立ち寄りやすいよう地域交流スペースがあつたりオレンジカフェを行っている。 | | |
| 30 (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所の際、本人と家族に主治医の選択をしもらいかかりつけ医を決定。協力病院往診時は情報提供表を元に相談し診て頂いている。家族対応での受診の際も家族に普段の様子を伝え主治医に話してもらっている。 | 家族付き添いの受診時は、大きな変化がない場合には口頭での申し送りが多いが、何か変化があった場合には、文書で情報提供したり、家族の了解をもらって直接交渉する場合もある。 | |
| 31 | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回訪看日があり、健康チェックや普段体調面で気になっていることを相談し助言を受けている。日々状態変化があった時は施設内の看護師や訪問看護師に相談し、助言を受け適切な対応をとれるようにしている。 | | |
| 32 | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 日頃の往診や通院で協力病院とのつながりがあり、相談しやすい関係である。入院した場合もすべて家族任せではなく、主治医や病棟看護師、MSWと連絡をとり情報交換し状況把握に努めている。 | | |
| 33 (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所の際に看取りについてのインフォームドコンセントを書面で確認している。状態が変化した際は早めに家族と話し合い家族の意向を伺うようにし、そのつどインフォームドコンセントを記入してもらうようにしている。 | 入所時に、所定の書式でホームの方針を示し、同意書をもらっている。また実際に終末期に入った場合には、新たに文書で確認を取ることにしている。その時々における希望や限界を伝え合い、何度も確認し合えるようにしている。 | |
| 34 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 社内勉強会等で看護師から急変時の対応を学んでいる。AED講習は職員が自動的に消防署に出向き講習を受けている。 | | |
| 35 (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月1回夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。訓練後は利用者を交えた反省会を行い次回の訓練に活かせるよう努めている。近隣住民に緊急連絡網への登録をお願いし緊急時の協力体制を整えている。 | 毎月夜間を想定した訓練を実施し、利用者からの反省も生かして、誘導の指示声掛けを見直したりしている。また近隣の10軒に協力同意を得ており、その方々へ協力依頼内容を書面で渡し、訓練時に近隣役を設けている。 | 火災に対する訓練しか行っていないため今後地震を想定した検討を行い、訓練の実施へつなげていただきたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 実践状況 | 実践状況 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|----|------|---|--|---|------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | | | | |
| | | IV. その人らしい暮らしを続けるため日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 「入居者のプライバシー保護についての取り決め」に基づき、一人ひとりの人生の歩みを大切にし人生の先輩として尊重しながら対応している。親しみの中にも敬意と距離感を保った言葉かけを心がけている。 | 一人ひとりが過ごしたいと思う場所で過ごせるように配慮できている。また、同じことを言う利用者に対して、何度も付き合うなど、利用者の権利をしっかり意識したケアの実践が見られた。 | | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 「～していただけますか？」等本人が決定できるような声かけを心がけている。自ら思いや希望を表せない方もいるので表情やしさなどから読み取り、本人が自分で決定できるような働きかけを心がけている。 | | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事以外はそれぞれが好きなことをして過ごす。折り紙や畳仕事、ユニット外を散歩したりと一人の時間を楽しんだり、歌番組を皆で楽しむ等その時々の体調、気分、環境に応じて心地よく過ごせるよう配慮している。 | | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 選べる方には自分で洋服を選んでもらう。好みの髪型でいられるよう、訪問美容やなじみの美容室にかかり、白髪染めやパーマをかけている方がいる。男性は自分でひげそりできるよう支援している。 | | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の出来る事を把握し環境を整えできるだけ皆さんにお手伝いしてもらえるよう配慮している。旬の野菜を頂いた時はおいしい食べ方をお聞きし、すぐ調理することで楽しい食事になるよう心がけている。 | 食事の準備、配膳片付けなど、利用者が自発的に行う姿が確認できた。また利用者でのきることに合わせた仕事がやりやすいようできていた。ユニットごとにメニューをアレンジし入居者の嗜好に合わせていた。 | | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日の食事・水分量をチェック表で確認している。量だけでなく、糖尿病の方や低栄養気味など個別対応をし体調管理に努めている。 | | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 声かけし、毎食後口腔ケアを行っている。出来るところはやってもらい、細かな部分は介助しながら清潔を保つようにしている。緑茶うがいはこまめに行っている。 | | | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|----------|--|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 43 | (16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンに応じ声かけや定時誘導を行い自立した排泄を支援している。入居者の行動や表情等からサインを読み取り、職員間で情報共有し対応している。 | 24時間シートを活用して排せつパターンを把握し、最適な時間を割り出すことで、失禁がなくなった例がある。また食事の前後の癖などに合わせた誘導を行っている。 | |
| 44 | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 起床時の冷水やファイバーの提供、カスピ海ヨーグルト、きのこや根菜など食物繊維の多い食事の提供等で自然なお通じを目指している。毎日の散歩やTV体操を行い必ず体を動かすようにしている。 | | |
| 45 | (17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 曜日や時間帯は決めておらず、希望の時間を尊重している。拒否のある方には出来るだけ入浴していただけるよう無理強いはせず、普段から声かけしタイミングを見計らい支援している。 | 夜間の覚醒の多かった利用者に対し、夕食後の入浴を実施し、安眠につなげた例がある。従来の習慣に近づける努力をしている。 | |
| 46 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 午前中の散歩や外気浴、家事仕事等で活動的に過ごし安眠への支援をしている。体調に合わせて休息を促したり浮腫軽減のためメドマーを使用。就寝前に歌謡番組を見てから休む方がおり生活の一部になっている。 | | |
| 47 | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋をファイルしいつでも確認できるようにしている。薬の変更があったときは日誌にて申し送り職員に周知し、24時間シートで状態の変化の把握に努めている。 | | |
| 48 | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 調理、洗濯干し・たたみ、掃除、食事の挨拶など役割を見つけ行えるよう支援している。ゴミ袋折り、広告箱折り、ハーモニカ、電子ピアノ演奏、一人囲碁などそれぞれの楽しみができるよう環境を整えている。 | | |
| 49 | (18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毎日の散歩は入居者の楽しみであり、ほぼ毎日出かけている。季節行事の花見や紅葉狩り、外食も入居者の希望も聞きながら行き先を決めている。外泊やお墓参りは家族の協力を得ながら行っている。 | よほど悪天候以外には、利用者側からも散歩の要望があり、毎日実施できている。また、家族とともに外出・外泊白を定期的に行っている方もいる。 | |

| 自己 外 部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|--------------|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 50 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分で管理されている方はいないが必要な物は立替金を準備し購入できるようにしている。夏祭りに出かけたとき自分で支払ってみたいという要望がありお金を渡し支払ってもらったことがあった。 | | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば家族に電話をかけ、直接お話しできるよう支援している。家族の協力の下、面会時に遠くに住む子供たちと電話している方もいる。 | | |
| 52 (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 照明は天気、時間により明るさを使い分け職員の声のトーンや行動も刺激にならないよう注意している。季節の花を飾ったり、掲示物でも季節感が出るようにしている。今年は中庭ウッドデッキに入居者とグリーンカーテンを作りゴーヤの成長を楽しんだ。 | 広い中庭に面した大きな窓から外の天候がよく分かり、自然光を上手に取り入れた建物と、ゆったりとした空間があった。必要なもの以外が目立たず、上手に必要な物品を収納していた。 | |
| 53 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下にあるベンチや椅子は一人で休んだり仲間で会話できる寛ぎの場になっている。和室のソファはメドマー使用時や寝る前のTV鑑賞の際、団らんの場になっている。お互いの部屋を行き来する方々もいる。 | | |
| 54 (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | なじみの物や使い慣れた日用品を持ち込んでもらえるよう家族に話している。仏壇、電子ピアノを持ち込んでいるケースがある。パートナーの写真を飾っている方が多く毎日挨拶し心の安定にもつながっている。 | 遺影や位牌を置いて毎日お供えしている方がいたり、家族の写真を飾ったり、個人の大ことにしているものを置いている。また本人の特性に応じた対応ができていた。 | |
| 55 | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 入居者の目線で見やすい位置に立体的な表示の工夫をしている。トイレや手すり、浴室など入居者の使いやすい高さや配置となるようにしている。本人の希望でドア前に手書きの表札をつけている方がいる。 | | |